

岡山県 生物多様性保全に効果の高い取組

「有機農業」

主作物について、化学肥料及び化学合成農薬を使用しない取組

- ・実施面積：126ha(29年度見込み)
- ・実施件数：42件
- ・実施地域：岡山市、倉敷市、瀬戸内市 等
- ・開始年度：平成23年度

実施状況



有機農業ほ場のカエル

岡山県では、126haの有機農業の取組があり、本事業で最も多い取組となっている。

有機農業は、本事業が創設された平成23年度から取り組まれているメニューで、平成23年度には78haであった面積が、平成29年度には126haに伸びている。

本県では、昭和63年から、全国に先駆けて、化学肥料・農薬を一切使わない「おかやま有機無農薬農産物」の認証制度を実施しており、有機農業の取組が広がっているものである。

調査結果

	実施地区	対照地区
クモ類	10	2
ニホンアマガエル	15	0
水生コウチュウ	20	3

ほ場における生き物調査を実施した結果、本事業の実施地区では、対照地区と比べて、いずれの生き物も個体数が多かった。

要因分析

有機農業では、除草剤を使用しないため、畦畔は豊富な生き物の生息場所となっており、生物多様性に効果があったものと思われる。

畦畔が広いほ場ほど、生き物の生息数は多い。

今後の方向性等

【今後の方向性】

有機農業を推進するため、実需者の有機農業に関する認識・理解の促進を図るなど、有機農産物の販路拡大を支援していく。

【その他】

有機農産物は、安全安心な農産物に関心の高い消費者に需要があり、イベント等で訪れた消費者と直取引により販売先を確保するなど、自ら販路拡大に努めている農業者もある。

また、おかやま有機無農薬農産物を加工し販売している事例もある。



←おかやま有機無農薬農産物

加工品(ベジタブルロス)→



岡山県 地球温暖化防止に効果の高い取組

「カバークロップ」

主作物の栽培期間の前後のいずれかにカバークロップ（緑肥）を作付けする取組。

- ・実施面積：117ha(29年度見込み)
- ・実施件数：16件
- ・実施地域：倉敷市、奈義町、美咲町 等
- ・開始年度：平成23年度

実施状況



カバークロップ(菜の花)
の栽培

岡山県では、117haのカバークロップの取組があり、有機農業に続き本事業で2番目に多い取組となっている。

カバークロップは、本事業が創設された平成23年度から取り組まれているメニューで、平成23年度には10haであった面積が、平成29年度には117haに伸びている。

調査結果

単位あたり	実施面積	温室効果ガス削減量
温室効果ガス削減量 (t-CO2/年/ha)	(ha)	(t-CO2/年)
1.90	117	222

平成29年度に、「土壌のCO2吸収「見える化」サイト(農研機構)」による温室効果ガス削減量を調査した結果、単位(ha)あたり削減量は1.90t、実施面積全体での削減量は222tとなった。(1年あたりで自動車95台分のCO2削減量に相当)

要因分析

効果が得られた要因として、県内での取組面積が大きいことが挙げられる。

今後の方向性等

【今後の方向性】

地球温暖化防止に向けた取組を、地域ぐるみで実施し効果が得られることを期待するとともに、農業の有する多面的機能の1つである良好な景観の形成に向けた取組としても、今後の広がりを期待するものである。

【その他】

当該取組で生産された農産物は、農業者の工夫により、ブランド化して販売されているものもあり、今後の強い農業、儲かる農業の先駆的取組として期待できる。

ブランド米→

